

「 祖父が教えてくれた土砂災害 」

広島県 広島市立舟入小学校 5年 田中 夢乃^{たなか ゆめの}

土砂災害という言葉を目にすると、今から八年前の平成26年8月20日にあった、平成26年8月豪雨による、広島県で起きた土砂くずれを思いうかべます。私は、土砂災害を体験したことは一度も無いのですが、ニュースや新聞、ネット、本などで、土砂災害のおそろしさを知りました。災害などのニュースを聞くと、むねがいたくなります。体験をしていないから、幸せだから、土砂災害でひがいにあった方の辛さ、悲しさは、分かりません。

でも、気持ちを考えることは出来ます。その人たちのためにも、色々な人たちのために、土砂災害をなくさなければいけません。

平成26年8月豪雨による、土砂くずりで、ひがいが多かったのは、広島県広島市の「八木」という所です。私の祖父母は、八木に近い「緑井」という所に住んでいます。幸いひがいがあまりなかった祖父母に、当時の様子を聞きました。8月20日の夜。その日は1時間で120ミリメートルもふったそうです。どのくらいすごいのか、ネットで調べてみました。きょうふを感じ、かさは全く役に立たないそうです。さらに、あたり一面が白っぽくなり、車を運転するのはきけんなんだそうです。

夜で、外は真っ暗。そして、たく山雨がふっています。山の上のほうでは、土といっしょに水が少しずつ流れてきて、水がたまり、下に流れるほど、いきおいがだんだん強くなって、家もかんたんにこわしてしまう力になる。はかい力がとてもすごかったよ。と祖父は言っていました。私は、こわいな。と思いました。

祖父母は、自分たちのおはかをもう買っていたのですが、土砂くずりで流されてなくなってしまったそうです。あんな、ガッシリしてとても重そうなおはかが流されるなんて と、とてもおどろきました。そのおはかはどこに行ったんだろう。祖父母のおはかだけでなく他の人のおはかも流されているはず。おはかが流れてきた人は、とてもびっくりしているだろうな。そう考えました。

平成26年8月豪雨で、死者はどのくらいでたんだろう、建物はどのくらいくずれたんだろう、どろ水はどのくらいたまっているんだろう、いろいろな疑問がうかんできたので、平成26年8月豪雨についてもっと調べてみることにしました。広島市で77名もの死者がでて、八木では55名の死者が出たそうです。土砂くずれのせいで、77名の人々が亡くなってしまった。私はとても悲しくなりました。一人でも、亡くなったら悲しいのに、たく山の人々が亡くなっている。土砂災害はこわいです。

その時の写真を見ると、どろ水、土、岩、流木が住宅地に流れこんでいました。建物がたく山くずれていました。自分の周りがそうなったら、そう考えると、土砂災害をなくさなければならぬ。と思います。

土砂災害は、人を死においやる、とてもこわいものです。土砂災害のひがいをおさえなければいけません。土砂災害だけではありません。じしん、つなみ。さまざまな災害があります。私は、このような災害にそなえていこうと思いました。